

# 事業概要シート

施策 1802 利便性の高い公共交通の確立 <>の金額 補正予算要求時…当初・繰越予算の合計額  
 新年度予算要求時…当初・繰越・補正予算の合計額

事業名	地域公共交通確保維持改善事業	拡充	予算額		11,921 千円
			<< 21,535 >>千円		
事業期間	平成29年度 ~	財源内訳	国庫支出金	5,040 千円	
根拠法令要綱等	大村市地域公共交通網形成計画		県支出金	千円	
			地方債	千円	
			その他	3,726 千円	
			一般財源	3,155 千円	

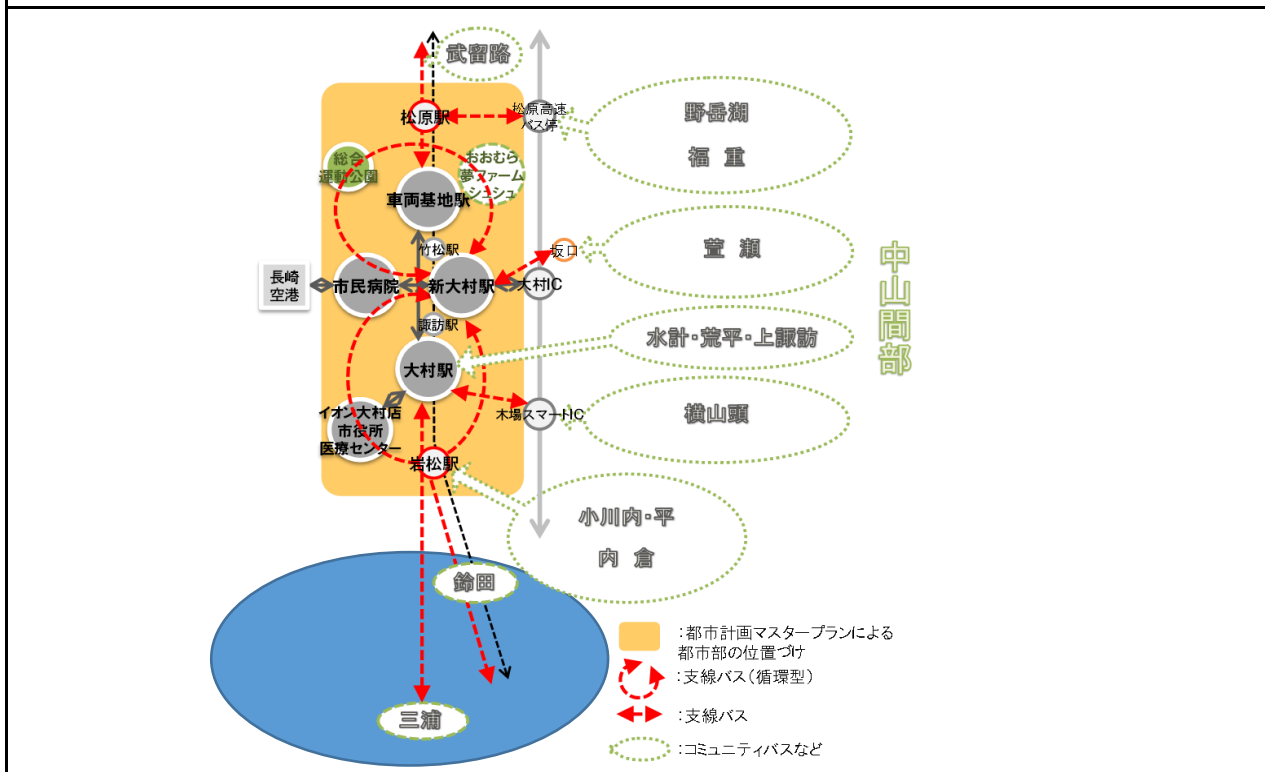
## 【事業の目的・概要・対象】

平成28年度に策定した大村市地域公共交通網形成計画の中で、中心拠点と市民の居住地の移動を支える「支線バス」と中山間部で住民の日常生活の足となる「コミュニティバス等」をネットワーク化することで、公共交通の利便性を図ることとしている。

三浦・鈴田地区において、平成30年度に実施する住民意向調査を基に地区住民と協議しながら交通結節点までの路線を決定し、実証実験として、乗合いタクシーを運行する。

交通空白地域や不便地域から、交通結節点となる駅やバス停まで乗合いタクシーを運行し、市民の移動手段の確保を図る。

- 平成29年度 7月 福重・松原及び荒平・水計地区乗合タクシー実証運行開始
- 12月 福重・松原地区にアンケート実施
- 3月 荒平・水計地区実証運行終了
- 平成30年度 6月 運行方法、ルート等の変更し、新運行を開始
- 10月 (予定) 三浦・鈴田地区住民意向調査
- 平成31年度 (予定) 三浦・鈴田地区実証運行



## 【背景】

高齢化社会の進展により、市の郊外や中山間地では、自家用車の運転もできず、交通結節点まで歩いていくこともできず、現在ある公共交通が利用できなくなっているという状況が見られる。大村市地域公共交通網形成計画では、こういった公共交通空白地に住む交通弱者の生活のための移動に適した乗合いタクシーなどの導入を検討することとしている。

担当課	産業振興部 商工振興課	課長	浦山 優
担当者	富浦 健	問合せ先	0957-53-4111 (内線248)

# 事業概要シート

## 【活動指標】

指標名		単位	H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (目標)	H31 (目標)	H32 (目標)
①	乗合いタクシーの運行数（年）	目標値 便	-	2,141	1,425	2,172	2,172
②		目標値					

## 【成果指標】

指標名		単位	H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (目標)	H31 (目標)	H32 (目標)
①	乗合いタクシーの利用者数（年）	目標値 人	-	1,043	1,331	2,652	2,652
②		目標値					

## 【予算・決算】（千円）

事業費は当初・繰越・補正予算の合計額

年度	H28	H29	H30	H31	H32	H33	合計
事業費	0	8,441	21,535	11,921	8,158	8,158	58,213
国庫支出金			7,246	5,040			12,286
県支出金							0
地方債							0
その他		8,441		3,726			12,167
一般財源			14,289	3,155	8,158	8,158	33,760
人件費		3,290	4,927	4,927	4,927	4,927	22,997
職員(人)		0.35人	0.65人	0.65人	0.65人	0.65人	2.95人
時間外勤務(h)		30h	100h	100h	100h	100h	430h
嘱託員(人)		0.37人					0.37人
フルコスト	0	11,731	26,462	16,848	13,085	13,085	81,210

妥当性 (市の関与)	交通空白地の移動手段を確保するという観点からも、公共性が高く、安全・安心な地域公共交通の利用促進が図られることから、市の関与は妥当である。
有効性 (施策貢献度)	現在、公共交通を利用できない高齢者等の交通弱者を対象に一定の移動手段を確保することで、公共交通の利用が増加することから、有効である。
効率性 (コスト)	市が運行主体となるが、運行自体は交通事業者へ委託して行うことで、必要最低限の経費に抑える。

1次評価	担当者記載のとおり
2次評価	1次評価者のとおり

評価調整 委員会評価	
---------------	--